

## 交通安全教室

2010年6月30日



保育園にて交通安全教室実施。毎年のことではあるが、防府市生活安全課・防府市安全会議の指導員のおねえさんが来園され、子どもたちに大切な命のことを教えていただく。

主に、「歩道があるところは歩道を歩く、白線があるところは白線の内側を歩く、何も無いところは右端を歩く。」などの道路の歩き方と「飛び出しをしない。」の二つをビデオや絵を用いて上手に伝えてもらう。ありがたいことである。

なお、何度も繰り返しを入れながら指導されていたが、「繰り返す」ことは、子どもたちに必要なことであり、クラスの中で、そして家庭へとこの内容を伝えていくことができ本当に意味のあるものになる。

今回は、来年山口県で開催される国体のマスコット「ちよるる」も参加。交通安全に関するクイズや「ちよるるダンス」を教わり、大喜びで終了。

来年の山口国体。前回の山口県での国体の時は小学校2年であった。たしか桑山中学校のところで開催された馬術競技を見に行った覚えがある。

## 命と心の教育

2010年6月29日



家庭と青少年問題を考える会 山口フォーラム代表 濱安 百合子先生の講演を聴く。演題は「思春期を生きる 心と体の変化 性は何のためにあるの」であった。

華西中学校 拡大保健委員会主催で全校生徒・保護者のみならず地域にも呼びかけがあり出席した。実際、生徒の話を聞く態度も素晴らしいものであったし、ここまで具体的に伝えなければならない時代になっている現状にも正直驚いた。

10代の妊娠中絶が全国平均よりも山口県が上であったことも驚きの一つであった。思春期・二次成長・男女の特性・性(セックス)とは何か・精通・妊娠・性感染症の怖さ等を命の大切さを通してお話されたが、望ましい思春期を過ごすために、家庭のガードを飛び越えて氾濫した情報が乱入する時代。先手先手の対応が必要とされていることを実感。

なお、華西中学校新体育館は7月13日に竣工式が行われるようであり、現在の体育館では最後の行事とのこと。久しぶりに入った体育館は、かつて我が子が中学時代、バレーボールの練習で何度かお世話になったこともあり個人的にも感慨深いものであった。

## 事務所移転について

---

**2010年6月28日**

6月30日をもって、「島田のりあき事務所」を移転いたします。

7月1日からは、防府市大字田島433になります。

なお、電話番号はそのまま変わりません。

今後ともよろしく願いいたします。

## 右田・田の口

---

**2010年6月28日**

右田、田の口の方の訪問をいただく。

昨日からの雨のことが話題になる。「昨年の土砂崩れの時は、その前に、きな臭いにおいがした。それを身体が覚えているから。」と、その地域ならではの自主避難の目安をお話してくださった。

約八カ月、なかなか安心して眠れることはできなかったこともお話され、心配そうに雨模様を眺めておられた。

大雨警報・洪水警報がほぼ途切れることなく発表されている山口県、防府。

保育園の園庭では、雨傘、合羽で子どもたちは水たまりを楽しんでいる。例年ではその姿を見て思わず微笑みが出るのだが、今年は不安感の方が先に脳裏をよぎる。

## Juneブライド

---

**2010年6月27日**



「6月の花嫁は幸せになれる」という。西洋の言い伝えからだそうであるが、日本では、梅雨。昔はあまりこの時期多くなかったように思う。

しかし、昨今は空調設備も完備され、新郎新婦、出席者も快適に過ごせる。実際、私自身この6月、2回目の結婚式である。

職業柄、圧倒的に花嫁側での出席となるが、気にかかるのは何と言っても花嫁の父。我が家も長女を嫁に出すときは、大変だった。我が家というより、私が大変だった。もうひとり、次女が同居しているが、奇しくもきょうが 26

歳の誕生日。どなたか、よろしく……。

話をもとにもどし、花嫁の父の涙には、いつも、もらい泣きをしてしまう。身につまされるのだろう。

きょうも、アットホームな中、幼き時からの家族のお姿が垣間見え、素敵でありがたい結婚式であった。必ず、幸せな家庭を築いていってくれることを確信する。

20代という若い世代の活気。この活気がまちをふるさとを勇気づける。

だからこそ、この若い世代へのバックアップが、もう少しこのふるさとには必要な気がする。

## 「責任をとること」と「参議院選挙」

---

**2010年6月26日**

いよいよ参議院選挙が始まった。私とすれば防府市長選から、もうひと月近く経つのかと思うほうが強い感触である。もうひとつ、昨年の総選挙時のような不安感の交錯する高揚感を感じないのはなぜなのだろうか？

かつてないほどの、多くの政党が乱立し、この国の将来を決めるために舌戦を繰り広げている。

私は、「責任」という言葉は大きいと思う。自分のしてきたこと、言ってきた言葉に「自己責任」を感じ、「責任をとること」のない政治家が増えてきたことが、この国の将来を危うくしている元凶だと考える。自分のことを棚に上げて平然と発言する無責任さは、決して褒められたことではないと思うのだが。

私は、その人が、この国のため、このふるさとのため、何をしてきたかを、そして何をしようと思っているのかをしっかりと考えていきたい。逆境にあっても、逆風にあっても、真摯なスタイルを貫き通した人を選びたい。

そして、何よりも私自身が、ブームやうわさ話からの選択ではなく、責任を持って選択することのできる自立した良い「選挙民」であろうと思う。

## サッカーワールドカップ

---

**2010年6月25日**

朝、4時半に目が覚めた。サッカーワールドカップ「日本対デンマーク戦」があることを思い出し、テレビのスイッチを入れる。オランダ戦で惜敗し、引き分ければ、決勝トーナメント出場がかかる試合だけに気にかかっていた。

映像が映ると、後半戦に入る前、何と日本が2対0でリード。完璧に目が覚め、それからはあっという間の45分間であった。

実は、オランダもデンマークもノルディックデモクラシー（北欧民主主義）を基盤とした社会福祉を学ぶため何度か訪れた国である。北欧全般に言えることだが、オランダも「個の自立」を尊重するスタイルが確立している。その代わりに「自己責任」も負うという基本もしっかりしている。また、他国の人々を比較的自由に受け入れることによ

り、人口減社会ではなく、よって少子化の傾向もない国である。

デンマークは何と言っても「アンデルセン」であった。生家のあるオーデンセはいまだにきれいな街並みであるが、小さな一つの部屋で家族全員が暮らしていた生家からは、幼少期の生活の厳しさは容易に想像できた。その厳しい生活にもかかわらず両親は愛情豊かに彼を育てたそうである。後に、挫折を繰り返しながらも、童話作家として成功していく基盤はこの幼少期にあったと思う。

なお、オランダもデンマークの幼稚園・保育園も、私の目指しているところと同じであり、「遊びと学び」を両立するメソッドを用い、生活する中で、工夫し、考えていくことを大事にしている。生活することで自然に生きていく智慧が身についていくのである。

これは、かつての日本もそうであったと思うのであるが、野や山で子どもたちが年齢に関係なく遊ぶことのできるフィールドがあった時代は、みんな生き生きとして、生きる、生活することを楽しみ謳歌していたのではないだろうか。

日本においても、地方こそ、そこに取り組む基盤はまだ残っていると思うのだが。

## 防災研修

2010年6月24日



昨夕、防府市保育協会で「防災研修」が実施された。NPO 法人ぼうぼうネットの尽力を頂いてのことだが、昨年の7、21豪雨災害のこともあり、本格的梅雨入りを前に、是非とも実施しておきたかった研修である。

私自身も、その NPO 法人に関わっていることもあるが、本来、保育園は危機管理の連続なのである。赤ちゃんから乳児・幼児までの成長を見守る中、ケガや病気など、毎日が命のことと直面しているのである。

研修は、昨年の災害の説明から入り、後半は各保育園の地域の状況に合わせた図上訓練をした。地域の実態を知ることで、危険の予知や保育士一人ひとりの視点・視野がひろがり、結果的に保育全般においても、とても良い影響のある内容であった。

かつて、阪神淡路大震災の復興支援に神戸の長田工業高校に行ったことがあるのだが、数年たった後、神戸のある保育園の先生は、保育園は災害時復興の拠点になることが多く、危険が回避された後は、地域にどう貢献できるか考えておくことも大事だとお話された。実際その園は、水をポリタンクに入れて大量に確保してある。

豪雨災害と震災とでは、実際の状況、事後の支援は随分と違いがあるが、いずれにしても、危機管理ということでは、やはり平生からが大事なことはいうまでもない。

昨年、保育協会は、保育を実施できない園の子どもたちを、市の子育て支援課と連携をとりながら近隣の園で受け入れをし、対応をした。かつてない経験の中で瞬時にそのような対応がなされたことは、意義深いことであったと思う。

また、子育て支援のノウハウを生かし、園庭開放事業や親子の居場所づくりを積極的に進めた園もあった。

このような研修を通じ、個やチームの対応力を高めておくことは大事ではあるが、今は、未曾有の大災害がやってこないことを心より念ずるばかりである。

## 創造的な文化

---

**2010年6月23日**

校長先生を退職され、いまも、子どもたちの教育に携わっている方のお話を拝聴する。

「教育は創造的な文化です。」「文化ですから見えないものを見えるようにする必要があります。」「だから、教員も創造的に生き生きしていないといけないのです。」

今もって、情熱的に子どもの成長に関わるお話を述べられる先生に、生涯を通じて子どものために誠心誠意尽くされてきた思いを感じた。

しかし、その間にある理想と現実。その谷間でご苦労された思いも感じ取れた。

長い間、言い古された感じさえするこの言葉。

気づいたものが、変えていくことができるものが、自らが動き出す。この努力をたゆまなく続けていける「ふるさと防府」でありたい。

10年、20年、30年長いスパンかかっても、いやかかるからこそ、すぐに始めなくてはならない大事なことを見落としていないか、このふるさとへの不安がある。

## お手本

---

**2010年6月22日**

大人は子どもたちのお手本となるように、お兄ちゃんお姉ちゃんは、小さな子どものお手本となるように。……そんな言葉を聞いて育ってきた。

ピアノの練習をしている小さな子どもの手習いを見て「いま、お手本となる大人や年長者がいるのだろうか？」と、ふと思った。

しかし、しっかりとあたりを見回すと、お手本となる方は、たくさんいらっしゃる。人生のアドバイスを誠実に伝えてくださったり、そっと支援をしてくださっていたり、また、小学生の行き帰りを安全にしようとしている「見回り隊」の方々など、多くの方が、このふるさとはいらっしゃる。ありがたいことです。

先日も、「選挙だから何言ってもいいとは思わないよね」「子どもたちには聞かせたくないよね」「これからは、まちの未来を語り夢を話してほしいよね」などと若い世代の方々からお話を承りました。

子どもたちのお手本となるように、自分の行動や発言を大事にしていくこと、これからも私のモットーとしていきます。

## 自立

**2010年6月21日**

土日と所用のため、母の見舞いに行けず。きょう、久しぶりに行くと、自分で車いすに乗りこみ、自分で車いすを動かすことができるようになっていた。

驚きである。気力・気迫に驚きである。

かつて、建築家で世界的に有名な安藤忠雄氏が、東京大学入学式の大学側代表挨拶で、新入学生はもとより、保護者に向けて「自立」を訴えられた。新入学生の倍の数の保護者席に向けて、思いを述べられたようである。

夕刻、保育園の玄関。2歳児のお迎えに来られたおばあちゃんが、お孫さんが靴をはくのをじっと待っておられた。この待つ時間が大事なのである。せかすことなく、穏やかな笑顔で待っておられた。これが、「自立」への第一歩。

幼き時も、老いてからも、この気持ちは大切にしていきたい。また、この気持ちを大切にできる社会環境が大事なのである。

## あじさい祭り

**2010年6月20日**

阿弥陀寺のあじさい祭りのお手伝いに家内が朝から行っていました。

お抹茶のお手伝いをさせていただいたのですが、多くの方に来ていただいたようです。

私も所用を済まし2時過ぎ、家内を迎えがてら出かけました。

素敵なあじさいと共に多くの地元の方々が関わっておられ、地域で支えていらっしゃる事が改めて良く分かりました。

やはり、まちづくりの基本は人づくりにつながる地域の連帯からだと思います。



## 小運動会

---

2010年6月19日



保育園の小運動会のひとコマです。赤ちゃんの時から来ている子どももしっかりと成長してくれています。年少3歳児なのですが、鉄棒で連続前回りが出来ることをお父さまが嬉しそうに話して下さいましたので、思わずパチリ！！  
山口市・周南市に比べて子育て政策がおくれています。たとえば保育料の違い・乳幼児医療費無料化など格差があり、少しでも改善を図れるようこれからも取り組んでいきたいと思えます。

## マニフェスト

---

2010年6月18日

参議院選挙投票日が確定し、各党のマニフェストが発表されている。  
実は、この度の防府市長選で政策発表をする時に、マニフェストという言葉を使うかどうかということで、相当苦心した。

私自身、元来マニフェストというスタイルに懐疑的であったのだが、昨今の国政選挙において、その気持ちはいっそう強くなっていたのである。

選挙戦の時は打ち上げ花火のように華々しいものが、選挙後は全く逆方向にぶれ始め、国民の不信感の増大を招く結果となっていたからである。月額 26,000 円の子ども手当、高速道路無料化、消費税アップに関する所など、昨年の話がもう変節をしているのである。民間企業において、昨年の約束を一年もたたずして変更するとなると、信頼感は損なわれ、経営としては成り立たないであろう。

よって、私はマニフェストという言葉は使用せず、「7 つの約束、11 の取り組み」として市民の皆様方にその思いを問うていったのである。

残念ながら、その思いは選挙結果としては届かなかったのであるが、皮肉なことに、各党のマニフェストを見れば見るほど、この度の防府市に対する私の政策は間違っていなかったと思うのである。

「この国のあるべき姿を先読みをし、地方において具現化する。」  
地方こそ、国を先取りをする姿勢が問われているのではなからうか？

## キッズニア

---

2010年6月17日



東京には、子どもたちが、大人の仕事を体験しながら遊ぶことのできる「キッズニア」というものがあります。

近年は、親の働く姿を直接見ることが少ないため、現代の子どもたちは働くことへの感覚が一昔前と異なるようです。それを、うまく利用した「キッズニア」は大繁盛なのだそうです。

毎年、トレンドに合わせてテーマを決めて運営されていますが、ちなみに今年は「農業・環境」で、来年は「IT」だそうです。

きょうは、保育園に中学校の職場体験事業で、5人の生徒が朝から実習に入ってくれています。赤ちゃんをととも上手に抱っこしながらも、一生懸命さが伝わってきます。その一生懸命の感動を自分の人生のひとつのステップにしてくれたらと思うつつ、一緒に写真に納まりました。

今、この国の教育・保育に求められているものは実際に体験することの大事さです。

政治もそうかもしれません。言葉が軽すぎるのです。できないことを平気で言う、その場しのぎができれば良いという風潮はどう考えてもおかしいと思うのですが、そのことだけでも、この国は、大変危機的な状況にあると考えます。

言葉だけでごまかされない、何が本当に大切なものか判断をする力が問われています。そのためにも体験を通じた学びをしていくことで、自分で選択をし、自己責任と共に自己決定をするスタイルで身につけていくものは大きいと思うのです。

## プチコンサートの練習

---

2010年6月16日



7月21日、夜8時から天神ピアで、「コール唯可」のプチコンサートを行います。

今日は、その練習でした。

「あなたに逢えてよかった」「生きる」などの心のつながる歌を披露します。

今日、一生懸命練習しましたので、どうぞおいでください。

昨年の大変な災害からちょうど1年目にあたる日ですが、復興・未来につながるように心をこめて演奏できればと思っています。



## 笑う門には・・・

---

2010年6月15日



久しぶりに自坊での仏教婦人会のご縁でした。  
テキストを題材に法話につなげると、笑いがたえることなく聴いていただきました。  
また心がつながるお話をする出会いをいただけること感謝です。

## 豪雨災害記録誌

---

2010年6月14日



7.21小野豪雨災害記録誌「災害・復興そして未来へ」を拝見しました。  
7月21日からの現状や、数十年前佐波川が氾濫したときの様子も合わせて掲載されており、大変なお悲しみの中、復興への努力をされつつ、記録を整理された方々のご尽力に深く敬意を抱かずにはおれませんでした。  
また、実体験に基づく手記も掲載され、今後の貴重な資料となっていくものと思います。  
巻頭の発刊にあたってのなかで、自主防災組織の大事さを清水連合会長が記しておられますが、この思いが多くの方々にも伝わっていくことがこれからの防府や山口県にとって最も大事なことだと実感した幸いです。

## アンパンマン

---

2010年6月13日



フレーベル館でのゼミナール終了後、玄関前のアンパンマンとツーショット。

そういえば、約30年前アンパンマンの作者であるやなせたかしさんを招いて講演をしたことを思い出しました。とっても素敵なお話でした。

心がつながる、わがふるさと防府のため、これからも尽力したいと思うのです。

## 保育ゼミナール

---

2010年6月12日



保育ゼミナール in 東京がフレーベル館本社会議室でありました。

今回のテーマは「倉橋惣三を読み返す」です。

『倉橋惣三保育へのロマン』第10刷を記念して倉橋惣三のフィロソフィーを学ぶゼミナールです。

司会進行役を仰せつかりましたが、保育の原点ともいべき貴重な研修でした。北海道から九州迄100名近い方が集まった勉強会でした。

荒井先生との研修中のショットです。

## 東京

---

2010年6月11日

山本一太議員にお礼に行きました。

総理大臣の所信表明演説の直後でしたので会うことはできませんでしたが、議員会館で秘書の方に重々感謝の意を伝えてきました。

総理の所信表明演説を聞き、改めて私の防府市への政策は、間違いないものだと確信しました。むしろ時代を先取りした地方の時代を具現化できるものではなかったかと思いました。

明日はノルディックデモクラシー(北欧民主主義)を私に叩き込んで下さった白鷗大学荒井冽先生のゼミナールがあります。最初の一歩から始めていきます。

これからも、ご支援よろしく申し上げます。

## カレーパーティ(^o^)/

---

2010年6月10日



保育園のカレーパーティ。

先日、玉ねぎ堀りをしたので、その玉ねぎを使って今日は子どもたちがカレー作りをしました。

自分で掘った玉ねぎを使い、自分で包丁を使って野菜を切り、自分で作ったカレーです。

このような行事一つでも子どもたちは「自立」への一歩を踏み出していると思います。

弾む声、ステキな笑顔につつまれて、温かさを感じるひとときでした。

## 家族悲喜こもごも

---

2010年6月9日

7人家族の我が家です。母は今入院中なので、実質は6人です。

その母もだいぶ良くなり、来週中には転院出来そうです。

息子たちに赤ちゃんが生まれます。ロンドンに住んでいる娘たちにも赤ちゃんが生まれます。

今年中に孫が二人になり、家族も増える予定です。

4世代が住む賑やかな家族、今から待ち遠しいです。

## 帝国データバンク

---

**2010年6月8日**

帝国データバンクの社員の方が、社会福祉法人のデータを、と保育園まで来られました。かつては、いわゆる企業中心のデータを集めていた会社ですが、社会福祉法人にもウイングをひろげているようです。

これからの日本は、少子高齢化社会をどう乗り越えていくかが大きなポイントです。社会福祉法人が社会的に認知されることがこの国の未来を将来づけると私は思うのです。地方こそ この考えの先取りを、と心から思っています。

## 小学校に図書を・・・

---

**2010年6月7日**

中関にある若竹会という古くからのグループがあります。かつては修学旅行の費用を出すこともできなかった子どもたちへ支援をする目的でつくられたそうです。今では、学校図書へ本を寄贈することに趣旨が変わっています。今日はその贈呈に中関小学校にお伺いしました。私自身小学校の時に、図書館の本をすべて読むほどの本の虫でした。活字離れ、本離れが言われていますが、一人でも多くの子どもたちが本と友だちになることを願っています。

## 早く元気になあーれ！！

---

**2010年6月6日**

入院している母のお見舞いに行きました。ご飯もよく食べ元気になっている様子がうかがえホッとしています。選挙が終わり3回目のお見舞いですが、そろそろ転院の話が出ているようです。これからまたいろいろ考えることが出てきそうですが、家族で話し合いながら決めていこうと思います。

## ご法事へ

---

**2010年6月5日**

今日は久し振りに法衣をまとい、ご法事へお参りしてきました。

政治の話ではなく、仏さまのお話をさせていただきました。やはり私の原点は、手を合わすことです。

これからも「おかげさま」と感謝の気持ちを大切に日暮しをしたいものです。

## 向島運動公園にて…

---

2010年6月4日



今日は、きんこう第二保育園の遠足。  
ランチを子どもたちの輪の中で食べました。

心地よい風の吹く中で、手作りのお弁当をほおぼる子どもたちの笑顔は、  
見てるだけで気持ちが和みます。  
こんな公園が街中にもあればなあと思ってしまうました。

## コーヒーカップ

---

2010年6月3日



長男夫婦の新婚旅行土産のコーヒーカップ。  
今年の2月にもらったペアカップ。

初めて今晚家内とコーヒーを飲むことが出来ました。  
ホッとひといき。明日からも前へ前へ。

## 笑顔

---

2010年6月2日



1月の記者会見以来、4ヶ月。  
このたびの防府市長選では、24,628名の方々のご支持をいただきました。  
これを基点に一人の市民として多くの方の笑顔づくりに努めたいと思います。

今日は、中関幼稚園の「親子遠足」でした。  
ステキな笑顔を見れたこと、とても嬉しく思います。